

集報

真宗学会

◇真宗学会大会

十一月十四日

於 図書館講堂

「報身について」

幡谷 明教授

「本願と予定」

橋本 峰雄氏

出席者 藤原学会長、松原・栗原・幡谷
教授、寺川・白井助教授、大門・本多
講師、江上・小野助手、林特研員・小
林・安富特研究生ほか学生六十名。

◇修士論文中間発表会

十二月七日

於 二〇七教室

「親鸞の彼岸意識について」

豊満 寛

「難易二道判」

藤森 教念

「懺悔と廻心」

吉田 法良

「廻向論の生成と展開」

近藤 祐昭

出席者 藤原学会長、松原教授、寺川助
教授、本多講師、江上・小野助手、林
特研員、小林・安富特研究生ほか学生四
十名。

◇卒業論文中間発表会

十二月十四日

於 二〇七教室

「響流十方」

岡井 義和

「歎異の心」

木越 慈明

「歎異抄の眼目」

蜂箇 裕善

「悪人正機」

竹沢 文秀

「現生不退論」

井上 薫

「二河譬の一考察」

丸田 年正

「御文の研究」

久我 信

出席者 藤原学会長、栗原・幡谷教授、
寺川助教授、本多講師、江上・小野助
手、林特研員、小林・安富特研究生ほか
学生七十名。

仏教学会

◇仏教学会例会——研究発表——

十月二十四日（火）

於 15番教室

「一、ミリンダパンハラの心所説について」

博士課程二回生 玉井 威氏

「一、称讃大乘功德経について」

博士課程三回生 中島省悟氏

「一、天台の治病方」

教授 安藤俊雄氏

出席 安井広済会長ほか学生・教員合
せて六十余名。

◇『仏教学セミナー』第16号発刊

十月三十日

目次

初期仏教の業思想について

——相应部の一經典の解釈をめぐって——

舟橋 一哉

人間的存在の構造(3)——生と死——

佐々木現順

梵網經の形態

白土 わか

「大乘」における仏教の全的把握のため

に——入中論第一章第一〜四偈——

小川 一乗

法雲の仏身説

木村 宣彰

チベット文献研究への道しるべ(1)

稲葉 正就

日本民族性と仏教の発展(3)

鈴木 大拙

『書評・紹介』

『仏教の起源』(宮坂有勝著)

雲井 昭善

『Indian Buddhism』(A. K.

Warder 著) 桜部 建

『法華經の中国的展開』(坂本幸男編)

『仏陀根本教四諦論の研究』(福原亮巖著)
 説への智慧

村松 法文

◇史蹟見学 十二月十日(日)

行先 秋篠寺・法華寺・西大寺・浄瑠璃

寺・般若寺

玉井 威

参加 学生・教員合わせて四十余名

宗 教 学 会

◇卒業論文中間発表会

十一月十三日(月) 於 八番教室

同 十六日(木) 於 三〇八番教室

同 十七日(金) 於 八番教室

三日間にわたって、本年度卒業予定者

十八名が、関係諸教授及び専攻学生、

大学院学生を前に、各自の論文の中間

発表を行い、学生間の質疑応答の後、

各先生から諸々の注意を受けた。

出席者 坂本弘教授、大屋憲一助教授、

古賀武鷹講師、堀尾孟助手、大学院学

生及び専攻学生(四回生、三回生)

◇三回生懇談会

十二月十六日(土) 午後六時

於 千らく

出席者 大屋憲一助教授、三回生全員

(八名)

国 史 学 会

◇卒業論文中間発表会

十一月三十日 十二月一日・二日

いずれも午後一時より。

堅田ゼミ(浦島伝説の研究、岩根秀樹は

か)、五来ゼミ(信参遠に於ける田楽の

研究 秋宗正男ほか)、柏原ゼミ(彦根

藩の財政々策 木村恵ほか)合同にて開

催。三日間にわたり発表者四十二名。出

席、五来教授、柏原教授、佐々木講師、

豊島特研生ほか学生多数。

◇秋季大会

十二月十六日(土) 午後一時

於 一号館会議室

研究発表

一、日本人の死生観

大神 信証

一、日本芸能史「特に太鼓踊型念仏芸能

を中心として」

大森 恵子

一、陰陽道史の研究

木場 明志

一、唱導絵画の研究

武内 範男

一、近世修験道史の研究

羽塚 孝和

一、弥生文化人種の日本移住の問題につ

いて

福本 修

一、山城・大和における霊場寺院の研究

山香 茂

公開講演

一、法華一揆について

京都府立大学
 助教授 藤井 学氏

大会終了後、鷹ヶ峰光悦荘において、学

会員有志集い、柏原祐泉教授を囲み学位

受領祝賀の小宴をひらく。出席・五来教

授、堅田教授、佐々木講師、豊島特研生

ほか学生二十七名。学外より、梅津次郎

博士、京都府立大学藤井学氏、花園大学

橘恭堂氏、大津市教育委員会木村至宏

氏、長浜市南中学校早崎得雄氏らの来会

をえて盛会裡に終る。

東洋史学会

東洋仏教史学会

中国文学会

◇東洋仏教史学会研究旅行

十月一日〜三日

北九州方面

特に佐賀の名護屋城趾、長崎の崇福寺を中心とした中国寺をくわしく見学。何れも吾が国と中国、朝鮮との往時の文化交流について実地に学習した。

指導—滋賀助教授・安藤助手、四回生八名参加。

◇「敦煌古写経」—続—発刊

発行日 昭和四十七年十月十三日

体裁 A四版 約二〇〇頁

大谷大学図書館所蔵の敦煌本古写経のうち、正編の十二点に続いて残る二十六点を図版七十三頁に収録。各経典に解説並びに大正大藏経との校勘表を附した。また、以下の如き諸氏の研究論文十篇も併せ収録されている。

一、漢訳仏典の流通

野上 俊静

—特に訳出の時と処に関連して—

一、刻経と写経

平野 顕照

—金剛般若波羅蜜多経を中心とし

て—

一、經典の装飾

高橋 正隆

一、大通方広経管見

牧田 諦亮

一、敦煌本「武后登極議疏」に関する研

究

滋野井 恬

一、供養のための敦煌写経

滋賀 高義

一、梁天監十八年勅写「出家人受菩薩戒法卷第一」試論

諏訪 義純

一、持誦金剛經靈驗功德記私攷

河内 昭円

一、中国における「大智度論」の研究講説

佐藤 心岳

—とくに隋時代を中心として—

一、西明寺円測系唯識学の流伝

稲葉 正就

◇中国文学会定例研究会

十月二十三日～二十四日

於—米原 小林屋支店

参加—平野顕照助教授、河内講師、ほか

専攻四回生十二名。

卒論指導を目的とした定例研究会で、各

専攻生が卒論の中間発表を行なったうえ

指導を受けた。

◇東洋学大学院生研究発表会

十月二十八日 午後一時

於 一号館四〇四番教室

発表題目並びに発表者名

一、寇謙之道教における奴隸救済について

て

尾崎 正治

一、王羲之私考

上場 正澄

一、金代の二税戸について

今井 周秀

一、王維詩と仏教

水崎 忍

一、経律異相所引雜譬喻経について

大内 文雄

一、薬師寺仏足石釈文考

河内 昭円

◇中国文学卒論中間発表会

十一月二十七日 午後二時三〇分

於 東洋学研究室

参加—平野助教授、河内講師、ほか専攻

学生二十二名。

卒業予定者十二名が論文の中間発表を行

ない、各自指導を受けた。

◇東洋史学会卒論中間発表会

十一月一日・十一月六日

於 一号館会議室

参加—野上教授、藤島講師ほか専攻学生

三十余名。

卒論提出予定者二十二名が発表し、活発

な討論と、指導が行われた。

◇東洋学関係大学院懇談会

十二月二十日

於 二伝

参加—野上・稲葉両教授、滋野井助教

授、河内・藤島両講師ほか院生十余名。

国文学会

◇秋季史蹟踏査

・文学部（十月一・二日）

見学場所 △第一日▽橿原神宮・久米寺・金峯山寺藏王堂・吉永神社・如意輪寺、△第二日▽金峯神社・西行庵・象山・宮滝遺跡。

参加者 山本教授・仲野教授・石橋助手、学生二十名。

・大学院（十月七日）
見学場所 磯長般若寺・鹿谷寺跡・当麻寺など。

参加者 多屋教授・仲野教授・石橋助手・入部助手、学生十四名。

英文学会

◇研究発表会（卒業論文発表）

十一月二十九日、三十日午前十時～午後四時 於 会議室、十六番教室。

論文発表||卒業予定者十六名。

出席者||福永教授、内藤助教授、山下助教授、榎原講師、松田助手ほか三、四回生四十名。

三十日、研究発表の後、茶話会を開いて論文作成、卒業後の進路等をめぐって歓談する。

社会学会

◇社会学公開講演会

十一月十八日後一時半～

於 視聴覚教室

講師||京都大学教授池田義祐氏
演題||「欧米の文化と社会」

出席||高橋助教授はじめ来聴者を含めて教員・学生五十余名。

講演会の後、三〇八教室にて茶話会を開く。高橋助教授以下三十数名参加。

教育学会

◇補導懇談会

十二月二十日

於 清洲新館

出席||太田助教授、大竹講師、田中助手、学生二十五名。

短期国文科

◇秋期文学史蹟見学及び補導懇談会

十月十九日（木）一回生A組

石山寺及び同宝物館を見学。午後雨天のため、瀬田河畔にて昼食・補導懇談会をして解散。

参加||仲野教授、片岡講師、入部助手、学生四十名。

十一月九日（木）二回生A組

醍醐方面散策。日野法界寺、醍醐三宝院、小野随心院（小町塚）などを見学した。参加||仲野教授、入部助手、学生三十八名。

十一月九日（木）二回生B組

嵯峨野大覚寺・嵐山天龍寺・松尾神社などを散策ののち、松尾橋西づめ「小島」に於て午後五時より補導懇談会を催す。参加||山本教授、片岡講師、河内講師、学生三十七名。

十二月十一日（月）二回生A組

円山公園内上海において午後五時より補導懇談会を催した。仲野教授、入部助手、学生三十五名が参加した。

大谷学会

◇大谷学会秋季公開講演会

十一月十一日午後一時より

於 二〇四教室

一、願生と未来

本学講師 本多 弘之

一、天台の神通義

本学講師 福島 光哉

一、人倫国家の悲劇性について

本学助教授 訓覇 曄雄

一、善珠について

本学助教授 名畑 崇

一、室生犀星の市井鬼小説

本学教授 仲野 良一

会員各位へ

大谷学会の会費を左記の如く改訂することになりましたので御報告致します。

年会費 一、五〇〇円（昭和四十八年度より実施）

ただし、昭和四十七年度以前入学の在学生については従来どおり一、〇〇〇円とします。

最近における印刷費・郵送料等諸物価の急激な高騰のため、従来の学会費では、これまでどおりの学会運営が出来なくなりましたので、会費改訂の止むなきに至りました。そのため、慎重に審議しました結果、上記の如く決定いたしました。会員各位におかれましては、何かと出費多端のことと存じますが、事情御賢察の上御諒承の程お願い申し上げます。

昭和四十八年二月一日

大谷学会